



「地域のチカラ」で

安心・安全な地域社会を目指して



北駿地区保護司会

会長 勝又その

日頃より地域の皆様には、更生保護活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。更生保護活動は、活動に携わる多くの方々との皆様の利他の精神と人間愛に支えられ、いろいろな活動が行われております。例年、「社会を明るくする運動」や「学校や幼保こども園との連携活動」等の犯罪予防活動も実施されております。

今年も犯罪や非行のない社会を地域の方々と共に目指すことを目的として、「第74回社会を明るくする運動」が、7月を強調月間として全国的に行われます。一月一日の能登半島地震では、大きな災害

が発生しました。北駿地区保護司会としても義援金を募りましたところ、合計五万一千円が集まりましたので送らせていただきました。また、本年度は更生保護制度75周年となります。現在の更生保護法の前身である犯罪者予防更生保護法が制定された昭和24年から数えて75年目となります。

犯罪や非行から立ち直ろうとする人達の生きづらさに寄り添い、支え合う地域社会づくりには、更生保護ボランティアの皆様の協力や民間協力者の方々と取り組む「地域のチカラ」が欠かせません。お陰様で、昨年度は更生保護活動に功績があったということで、北駿地区から二団体、「社会福祉法人ステップ・ワン」様と「株式会社オサコー建設」様が静岡保護観察所長より感謝状を頂きました。当地区の他の諸団体の皆様のご協力と合わせて改めて感謝申し上げます。

また、7月は再犯防止推進法に基づく再犯防止月間ともなります。再犯・再非行防止のために、地域の皆様と共に連携して犯罪や非行のない明るい地域づくりを目指したいと思っております。

これからも、更生保護事業の充実と発展のために、地域の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 能登半島地震災害義援金

北駿地区保護司会として、一月一日に発生した能登半島地震災害に対しまして次のように義援金を送らせていただきました。

○金五万一千円

○送付先…日本赤十字社静岡県支部

### 「新任保護司の紹介」

令和5年度に保護司になられた方々です。



小山地区 相原正和

座右の銘は「やればできる」。研修などを通して知識を身につけ、少しでもお役に立てればと思いますので皆様よろしくお願ひします。



小山地区 湯山真仁

地域社会に少しでも貢献できればとの思いで、この仕事をお引き受けしました。よろしくお願ひ致します。



印野地区 石田英司

誰もが安心して暮らしやすい地域であり続けられ、犯罪のない明るい社会づくりに努めて参ります。よろしくお願ひ致します。

## ミニ集会の紹介

## 「住み良い玉穂」を創る会

玉穂地区保護司 鈴木雄誠

この会は平成19年度に設立され、地域安全活動に尽力し、安心の街づくりに貢献したことから、令和元年6月に静岡県防犯協会連合会（川勝平太会長）から表彰されました。

参加者は学校関係者、区長、民生委員、警察官など77名（昨年）に及びます。保護司の「社会を明るくする運動」の趣旨説明に始まり、保護司の面接活動、

広報誌「北駿」の記事の紹介等を行います。学校関係者からは、小中・高等学校の状況と課題

について、警察関係者からは地区の犯罪発生件数や具体的な状況及び注意点について、主催者からは防犯グッズの紹介や安全マップの確認などが例年行われています。

限られた時間の中で年2回、7月と10月に実施しています。玉穂地区の防犯ネットワークの充実を目的に各分野の代表が集まり、安



県防犯協会連合会からの表彰状

全上の課題等、特に犯罪や非行防止のために注意を喚起してほしい項目などについての確かな情報交換が行われています。

平成19年度以降「住み良い玉穂」を創る会との共同開催により、玉穂地区の幅広い団体、役職の参加が可能となっています。現在では地域ぐるみのミニ集会になっています。

保護司会として強調しているのは、地域づくり、広範なネットワークの構築です。地域におけるネットワークづくりは、更生保護の取り組みにおいても重要ですが、それは単なる支援の手段ではなく、豊かな地域づくりのための一つの方法でなければならぬと伝えています。

犯罪に至った経緯や再犯に陥る状況を地域で共有し、地域住民が他人事ではなく自らの問題として捉え、行動できるような地域になるよう活動しています。



ミニ集会の様子

## 「子育て応援講話を取り入れた集会」

富士岡地区保護司 小林武治

これまで富士岡地区のミニ集会は、保護司の活動概要および社会を明るくする運動の主旨を地域の方々に知っていただく、幼児教育の大切さを改めて確認する講話で子育て支援を図ることを目的にして、地区内にある市立幼稚園で園児の保護者の皆様を対象に、ミニ集会を企画運営してきました。

他地区に比較して本地区のミニ集会の特徴は、対象者と子育て応援講話にあると言えます。幼稚園児の保護者の皆様を対象にした理由には、次の二点の背景を鑑みています。一つ目は、不適切な養育がもたらす心理的影響は、対人関係の歪みや感情の調節の困難性など、こどもの日常生活において様々な行動上の問題として現れることが知られていること。二つ目は、犯罪や非行に及んだ人達には、小児期逆境体験を受けていることが要因となっており、非行や犯罪に及んでいる人達が少なからずいるという調査報告があること。これらのことから、幼児教育の大切さを改めて確認するような講話をすることで子育て支援を図り、それが犯罪や非行を未然に防ぐ一つの手立てになるかもしれないと考えたからです。

令和2年度と3年度は、コロナ禍でミニ集  
会ができませんでした。その後ミニ集会が再  
開し、令和4年度は市立竈幼稚園、令和5年  
度は市立富士岡幼稚園で開催しました。集会  
では、保護者の皆様には法務省発行の保護司  
活動に関するパンフレットや社明運動啓発用  
品、講話資料、感想用紙などを配布しました。  
さらに園児全員に「ホゴちゃん ぬりえ」

（関東地方更生保護事業協会）を一人一冊ず  
つ配布しました。令和4年度の子育て応援講  
話では、主催者から『子どもも親も元気にな  
れるストローク、リフレミネング』のテーマ  
で話をさせていただきました。ちなみにスト  
ロークとは対人関係の基本となる心理的交流  
であり、リフレミネングとはフレーム（見方、  
意味、解釈など）を変えることです。令和5  
年度の子育て応援講話では、元小山町教育長  
天野文子氏から『子ども時代を心豊かに』の  
テーマで講話をしていただきました。子ども  
が安心できる環境づくり、子どもを受け入れ  
てあげることの大切さ、しつけとは人として  
育っていく過程で身につけていくもの、自主  
自立の精神を育てることなどが話されました。  
ほとんどの保護者の皆様  
が感想用紙を提出してく  
ださり、大変好評であっ  
たことが感想内容から読  
み取れました。



更生ペンギンのホゴ  
ちゃんとサラちゃん

## 「社会を明るくする運動」

須走地区保護司 嶋田芳男

○日時、令和5年7月4日、午後2時30分  
から3時30分。会場は須走中学校3階談話室。  
参加人員、保護司2名、更生保護女性会2名、  
学校職員4名、小山町福祉長寿課1名、中学  
1年生41名、合計50名。

昨年は、全校生徒を対象とし体育館を実施  
場所としましたが、少人数の方が良いと判断  
をして、今年を変えて実施しました。

その結果として、一人一人の顔を見ながら  
話ができ、保護司としての役割等を理解でき  
たと思っています。具体的に犯罪を犯した人  
が、どういう流れで保護司と関係していくか  
を分かりやすく説明させていただきました。

保護司、更生保護女性会、PTA、学校、  
警察、地域の人々等の関わり、中学生の一人  
として何ができるかを考えさせる場であって  
ほしいと思います。これからも毎年実施しま  
すが、犯罪や非行のない、誰もが笑顔で過ご  
せる地域づくりを目指し、その地域の中の機  
関や団体が手を取り合っって子どもたちを見守  
っていききたいと思っています。



須走中学校での様子

**想う、**  
**ときには足をとめ。**

誰だって、すぐには本音を話せない。  
誰だって、すぐには希望を抱けない。  
誰だって、すぐには変わることができない。  
でも、たとえ時間がかかっても、  
たとえ過去にあやまちがあっても、  
誰かと一緒に希望はある。  
声をかけ、背中を押し、  
あきらめず寄り添い続ける。  
信じ待つ人の存在は、  
立ち直りへの大きな力になるだろう。  
私たちの「待つ時間」は、  
きっと誰かの「変わっていく時間」。

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ  
第74回 社会を明るくする運動

7月は「社会を明るくする運動」  
強調月間・再犯防止啓発月間です。 投稿 しゅい



## 「就労支援部会活動の紹介 再犯防止に向けて」

就労支援部会会長 鈴木雄誠

保護観察対象者の改善更生を図り、再犯を防止するためには、早期に就労先を確保し安定した就労体制を維持することが重要です。

昨年8月北駿地区の保護司を対象に行った就労状況の実態調査によれば87%が就労先を対象者自身で決めていました。協力雇用主会にお願いして決まったものは僅か4%でした。

そのような経緯から協力雇用主会の皆さんの協力を得るために意見交換会を昨年11月に開催しました。最初に、静岡保護観察所就労支援班の森山はるか保護観察官に講義をお願いしました。就労支援のメリット、手続きの流れ、就労支援事業者機構による支援等具体例を挙げてわかりやすく解説して頂きました。特に社会復帰を目指す保護観察対象者にとって、働くことは重要で切実な問題であるとの話が印象に残りました。

その後、8社9人の雇用主会員と保護司10人による意見交換会を催しました。自己紹介に始まり、積極的な意見や前向きで協力的な意見が多数出ました。予定した時間を大幅にオーバーするほど後半は熱心な意見交換会を行うことができました。

今まで協力雇用主会の皆さんと顔を付き合わせて話す機会はほとんどありませんでした。保護司の中にも、雇用側の生の声を聞いてみたいとか協力雇用主会との関係を強くしたい等の意見があります。この意見交換会を更に充実して風通しの良い保護司と協力雇用主会にしたいものです。



意見交換会の様子



保護観察官講義

## 「意見交換会に参加して」

オサコー建設総務部長 長田茂樹

3年前から社内の人事・採用責任者となり、採用活動に関してようやく独り立ちできるようになってはいるものの、保護司会の活動に関しては知識がほとんどなく、今回の意見交換会に参加させて頂き、保護司会活動を知る良い機会を頂いたと感謝しております。

協力雇用主という立場もこのような機会がなければ、しばらくは誤った認識でいたと思います。限られた時間ではあったものの大変有意義な情報交換会でした。

犯罪がなくなることが一番良いことは間違いなのですが、ゼロにするのは難しいのが事実です。協力雇用主として犯罪や非行を犯した人が社会復帰するために雇用の機会・環境を整え、その後に再犯をせずに生活しているお手伝いをして「更生できる」「人並みに生活できる」等々メッセージを伝え続け、社会貢献していくことが大切だと思います。保護司の皆さんがボランティアとして熱心に活動されている姿を垣間見て、自分たちももっと何かできるのではないかと思います。雇用主会に入って、待つだけではなく勉強して会社としての繋がりに結びつけたいです。

令和5年度「社会を明るくする運動」

静岡県 作文コンテスト

## 静岡県推進委員会特別賞

（静岡県校長会会長賞）

### 「頼れる社会へ」

御殿場市立御殿場中学校3年

あまのえいと  
天野 瑛 仁

突然ですが、皆さんは友達が犯罪を犯そうとしていたらどうしますか。きつと、その友達に犯罪を犯さないよう説得したり、友達の支えになろうと思う人が多いのではないのでしょうか。

では、それが赤の他人だったらどうでしょうか。積極的に知らない人を説得したり、その人の支えになつたりしようという人は少ないのではないのでしょうか。僕もその一人です。最近、毎日のようにテレビやニュースでは窃盗、暴行、詐欺などの犯罪が取り上げられています。僕はそんなニュースを目にしたとき、なぜ犯罪を犯すまでに至ってしまったのだらうと、犯罪を犯した人の立場に立って考えることがよくあります。どうすれば犯罪や非行のない社会になるのでしょうか。

僕は今中学三年生です。僕と同じ中学生でも犯罪を犯してしまう人がいます。中学生の犯罪で多いのは、万引きや占有離脱物横領罪だそうなんです。占有離脱物横領罪とは、落としものなどを自分のものにしてしまうことで、中学生では自転車泥棒が多いと考えられます。

また、闇バイトとして特殊詐欺の一員に利用されてしまうこともあると聞いたことがあります。

中学生が犯罪を犯す原因は大きく二つあるそうです。一つ目は心理的な未成熟によるもの。二つ目は地域社会、学校、家庭などの環境によるものだそうです。

前にあげた犯罪の動機として「お金はないけど手に入れたい」「楽をして欲しいものを手に入れたい」などが考えられます。これは、心理的な未成熟が原因の犯罪といえると思います。特に万引きは最悪の場合、クレプトマニア（窃盗症）という万引きをやめたくても自分の意思ではやめられない精神の病気に陥ってしまうこともあります。

次に地域社会、学校、家庭などの環境によるものについて考えていきます。例えば、受験に落ちてしまつて挫折したり、学校で人間関係がうまくいかなかったりするとストレスが溜まり学校に行かなくなる人もいます。そうすると同じように学校に行かない人が集まつてグループをつくります。その中の一人が犯罪を犯した時に、誰も止めずに集団で犯罪に手を染めてしまうというケースもあります。もしも彼らの周りに犯罪を止めてくれる人がいれば、こういった犯罪はなくなると思いませんか。そう考えると、これは環境が原因の犯罪といえるでしょう。

これらのことに共通しているのは、周りに犯罪を止めてくれる、ストッパーがいなくてだと思えます。犯罪に手を染めてしまう人達に頼れる人がいれば、手を差し伸べてくれる人がいれば、その人達の意識や環境を変えていくことだってできると思います。電話相談窓口などもあります。実際にそこに助けを求められる人ばかりではありません。身近な

人の中に、頼れる人がいないと、犯罪に手を染めてしまう確率は高くなると思います。

では、犯罪に至る前に頼れる人を増やすためにはどうしたらよいのでしょうか。

僕の学校では、体育祭で学級対抗の長縄を行っていました。長縄は学級のみならず力で力を合せて行う競技なので、みんなで作戦を考えたり、タイミングを合わせて跳べるように声を合わせたりして練習をしました。そうしていくうちに、クラスの中で自分の所属感が生まれ、お互いに頼れる人がたくさんできたことを実感することができました。

また、地域行事で神社の清掃を行ったことがあります。友達とみんな協力して掃除をしたり、地域のおじいさん、おばあさんと挨拶や会話をしたりすることで地域の和が深まつたこともあります。

このように行事などを通して人と関わることで、人との関係が深まつていくのだと感じています。学校行事や地域行事を通して人との関係が広がります。そうして広まつた輪の中から心の拠り所となる、頼れる存在の人が現れることもあるのではないのでしょうか。また、知らない人であれば、気にかけない、支えになろうとは思わなくても、一度関わった人であれば、その人が困っていたり犯罪に手を染めてしまえば、そうだったりしたら、支えてあげたいと思えるのではないのでしょうか。行事を通して人と人との関わりを増やすことで、犯罪をしようと思う人が減り、犯罪が減っていくと思います。

犯罪・非行のない社会にしていくために、誰もが助け合い、支え合える、そんな「頼れる社会」になることを心から願っています。そのためにも、僕自身、まずは今自分の周りにいる人を大切にしていきます。

